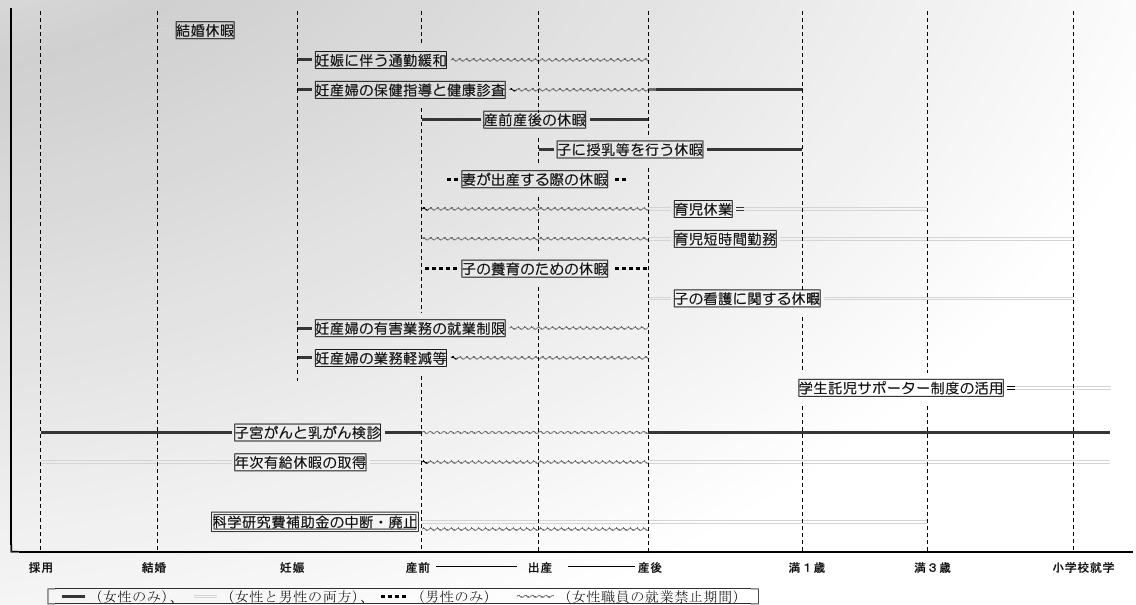


(4)就業規則の周知徹底

本学では、出産や育児等、ライフステージに合わせた各種就業規則が整備されている。しかし、実際には、どのような制度があるのか、具体的な取得方法等についての認知度は低く、これらの就業規則を活用できていない現状がある。そこで、平成 21 年度は、活用可能な就業規則・制度をライフステージ毎に整理し、HP 上で容易に検索できるシステムを構築し、3 月に供用を開始した。平成 22 年度以降はその他の就業規則についても、リーフレット等を作成し、わかりやすい方法で順次 PR して行く予定である。

山形大学職員のワークライフ・バランスに配慮し取得できる休暇等の制度（採用～結婚～出産～子育てまで）

山形大学は男女共同参画を推進しておりますが、昨年実施した「男女共同参画に係る全学アンケート」の中で、職員から「出産や育児のための業務の免除や軽減に関する就業規則はあるのは知っているが、具体的な取得方法が分かりにくく、もっとわかりやすく明示してほしい。」等の要望が多く寄せられました。そこで、本学において取得できる休暇等を含めさまざまな制度を以下のとおり表示しますが、教職員、定時勤務職員又は短時間勤務職員が取得できる休暇制度等にはそれぞれに違いもありますので、ご留意願います。



【ばれっと通信 第2号】

☆☆☆☆山大男女共同参画推進 ばれっと通信 第2号☆☆☆☆ (H22.3.1 発行)

◎「国際女性の日」をご存知ですか？

約1世紀前、女性の政治的自由のために立ち上がったのが3月8日、その日を記念して国連では1975年に3月8日を「国際女性の日」と決めました。それ以降、世界各国の女性たちは、女性のエンパワーメントのための様々なイベントを開催しています。

山形大学男女共同参画推進室でも、女性研究者が生き生きと且つ良くできるような環境づくりを目指したいと考えています。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆シンポジウムのご報告◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

2月12日に行われた男女共同参画シンポジウム in2010 が「見つけよう！あなたのワークライフバランス」をテーマに小白川キャンパスで開催されました。お忙しい中、来場者123名と、多数の皆様にご来場いただきました。ありがとうございました！北海道大学の女性研究者支援室長の有賀早苗教授を講師にお迎えし、「ワークライフバランスを支える環境と覚悟」と題して、Triple Twenties 計画やオンデマンド支援など北海道大学の支援策を紹介しながら女性研究者の支援の必要性を講演されました。

また学内外から5人のパネリストを迎え、家庭との両立を困難にする要因や大学側への要望等が述べられ、個々の状況によって支援の方法が違う点、職場での協力の必要性、個人ではなく組織ぐるみでWLB支援が必要等の意見交換がなされました。

詳しくは、男女共同参画推進室の今年度の活動報告書にまとめます。お楽しみに！

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆山大センサス◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

Q, 山形大学の研究者の皆さんは、どんな人と暮らしているのでしょうか？

A, 配偶者・パートナーはいない 33.9%

配偶者・パートナーはいる 66.1%

Q, 配偶者・パートナーと一緒に暮らしているのでしょうか？

A, 配偶者・パートナーと同居 56.4%

配偶者・パートナーと別居 9.7%

Q, お子さんはいるのでしょうか？

A, お子さんがいない 51.2%

お子さんがいる 45.9%

Q, お子さんの数は何人でしょうか？(お子さんのいる方のみ回答)

A, 子供数：1人 24.6% ・ 2人 53.1% ・ 3人以上 22.3%

(2009年11月に実施しました「男女共同参画に係るアンケート」より)

育児をしながら働いている方、パートナーと別居されている方もいます。

山大の実態に合わせた支援のあり方を考えていきたいですね。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆お知らせ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

◎小白川キャンパス図書館の入り口身障者用トイレ内にベビーシートが併設されました。

小さなお子さんをお持ちの方はご利用ください。今回の設置にあたっては、学生さんから子どものオムツ替えする場所がないとのお声を頂き、設置が実現しました。男女共同参画推進室では皆様のご要望に随時応えていきたいと思っております。

ご要望がありましたらご連絡下さい。

◎ニューズレター第2号に女性研究者ご紹介欄があります。原稿を書いていただけの方を

至急！大募集中です。ご協力いただける方は、内線4937木村までご連絡下さい。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆一言メモ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

◎仕事と生活の調和が実現した社会とは？

国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会(内閣府「仕事と生活の調和憲章」より)

◎3月に入っても、まだまだ寒い日が続きます。体調管理には十分お気をつけくださいませ。

寒いこの時期は、山形の郷土料理の納豆汁がお勧めですよ。野菜類、コンニャク、芋がらを煮込んで、豆腐と葱を入れて納豆と味噌で味つけすれば完成！

納豆汁の素も売っていますよ。熱〜い納豆汁を食べて体の中から温まりましょう！！

◆このメールマガジンについてのご意見・ご質問・メルマガ解除等は

junkai-mail@jm.kj.yamagata-u.ac.jp までお願いします。

2. 研究と育児等の両立支援

研究と育児等の両立を可能とするためには、研究環境の整備は不可欠である。山形大学ではその具体的支援として、平成 21 年度から託児サポーター制度、ユビキタス・ワーキング・システム、巡回聞き取り相談等を開始した。託児サポーター制度は、保育施設設置の要望の高い小白川キャンパスにおいて、初めて導入した保育事業であるため、設置については好評だったものの、ユーザーのニーズにより適した実施運営が求められており、平成 22 年度以降、実施内容等について改善していく予定である。ユビキタス・ワーキング・システムについては、平成 22 年度も引き続き、学務情報や財務会計システム等への自宅からのアクセスを可能にし、様々なシステムのユビキタス化を図る。更に、巡回聞き取り相談については、平成 21 年度に実施した内容を精査し、学内の女性研究者の現状やニーズを分析した上で、学内へ女性研究者の置かれた現状を理解してもらうためのブックレット等を発行し、今後の男女共同参画事業へ巡回聞き取り相談の結果を反映させていく予定である。

(1) 託児サポーター制度

研究と育児等を両立可能にする研究環境整備の具体的支援の1つとして、平成 21 年 12 月 1 日よりスタートした同制度は、急に仕事が長引いて保育所や学校から帰る子どもの面倒が見られない場合等に備え、学内において一時保育を行うものである。学内に保育スペースを確保するとともに、子どもに関心のある学生などを一定の研修の上登録し、託児サポーターが保育士の指導のもと保育にあたる。ほぼ 1 対 1 で学生が保育にあたるため、子どもには好評である。しかし、夕方 5 時～8 時までの 3 時間と保育時間が短時間であること、昼間の保育先から保護者が子どもを連れて来なくてはならないこと、保育士確保の都合上、利用申込みが原則 5 日前であること等、利用者のニーズと適した制度となつてはならず、未だ課題が多い。

平成 22 年度は、保育時間を拡張することも含め現在検討中であり、利用者のニーズに合った制度となるよう改善して行く予定である。

【託児サポーター制度実施規定】

国立大学法人山形大学託児サポーター制度実施規程

平成 21 年 11 月 4 日
規程第 257 号

- (趣旨)
- 第 1 条 この規程は、山形大学（以下「本学」という。）における育児中の教職員等への支援として行う山形大学託児サポーター制度の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。
- (定義)
- 第 2 条 この規程において、託児サポーターとは、本学の構内において一時的に満 1 歳以上で小学生以下の子どもを預かり、保育士とともに保育を行う本学の学生又は大学院生をいう。
- (資格)
- 第 3 条 託児サポーターとなるには、本学が指定する所定の研修を修了しなければならない。
- (認定・登録)
- 第 4 条 託児サポーターの認定は、前条の資格を有する者の中から、山形大学男女共同参画推進室長（以下「室長」という。）の推薦に基づき、学長が行う。
- 2 前項の規定により託児サポーターとして認定された者には、認定書及び登録証を交付する。
- 3 登録証は、交付日から当該登録証の交付を受けた者が本学に在籍する期間、効力を有する。
- 4 学長は、室長に年 1 回面談等により託児サポーターとしての適性を確認させ、不適性であると認められた者の登録を取り消すことができる。
- (人事上の取扱い)
- 第 5 条 託児サポーターの採用は、「国立大学法人山形大学アドミニストレイティブ・アシスタントに関する規則」による。
- (勤務)
- 第 6 条 託児サポーターの勤務は、室長の指示の下で、本学の指定する場所において、原則、平日午後 4 時 30 分から午後 8 時 30 分までとする。
- (遵守事項)
- 第 7 条 託児サポーターは、プライバシーの保護に配慮するとともに、本学の諸規則を遵守しなければならない。
- (利用者)
- 第 8 条 託児サポーター制度を利用できる教職員等の範囲は、次のとおりとする。
- (1) 本学に勤務する職員、定時勤務職員及び短時間勤務職員で、育児中である者
- (2) 本学の大学院等に在籍する学生で、育児中である者
- (3) その他室長が適当と認める者
- (利用の方法等)

- 第 9 条 託児サポーター制度の利用を希望する教職員等は、所定の様式により、山形大学男女共同参画推進室（以下「推進室」という。）にあらかじめ登録しなければならない。
- 2 託児サポーター制度の利用に当たり、教職員等は保育を希望する日の原則 5 日前までに推進室に申し出なければならない。
- 3 推進室は、前項の規定による職員等の申し出に基づき、保育を担当する託児サポーターを決定する。
- (その他)
- 第 10 条 この規程に定めるもののほか、託児サポーター制度の取扱いに関し必要な事項は、室長が別に定める。

附 則

この規程は、平成 21 年 11 月 4 日から施行する。

①託児サポーター

【託児サポーター研修】

平成 21 年 9 月 24～10 月 30 日にかけて、22 時間に及ぶ「山形大学託児サポーター研修」を、本学と「子育てランドあ～べ」を会場にして行った。財団法人女性労働協会の「保育サービス講習会」のカリキュラムに従って医師、保育士、栄養士等による講義に加え、山形大学独自の保育実習を加えた講義に、33 名の学生が研修に参加した。性別内訳は女性 29 名・男性 4 名、学部別内訳は人文学部 8 名、地域教育文化学部 22 名、理学部 2 名、農学部 1 名である。22 時間全ての研修を受けた受講者全員を託児サポーターとして登録し、現在、託児サポーターとして活動中である。

カリキュラム

山形大学託児サポーター研修

日時	内容	講師	会場	時間数
2009/9/24(木) 9:00 ～10:00	オリエンテーション 子ども・子育てを取り巻く環 境	立川美由紀	山形大学 1号館131教室	1 時間
2009/9/24(木) 10:00～ 12:00	保育の心	武田はるみ	山形大学 1号館131教室	2 時間
2009/9/24(木) 13:00 ～15:00	身体の発育と病気①	荒井真知子	山形大学 1号館131教室	2 時間
2009/9/25(金) 10:00～12:00	子どもの栄養と食生活	大沼永子	山形大学 3号館312教室	2 時間
2009/9/25(金) 13:00 ～16:00	心の発達とその問題	渡辺裕子	山形大学 3号館312教室	3 時間
2009/9/28(月) 10:00 ～12:00	安全・事故	黒木正美	山形大学 3号館312教室	2 時間
2009/9/30(水)、 10/2(金)、6(火)、 7(水)13:00～16:00	子どもの遊び	小鹿泰子	子育てランドあ～べ	3 時間
2009/9/30(水)、 10/2(金)、6(火)、 7(水)13:00～16:00	子どもの世話	和田美紀	子育てランドあ～べ	3 時間
2009/10/30(金)17:00～ 19:00	身体の発育と病気②	佐々木綾子	山形大学	2 時間
2009/10/30(金)14:50～ 16:50	障害をもった子どもの預か りについて	木村松子	山形大学	2 時間
			計	22 時間

【託児サポーター研修の様子】



山形新聞 朝刊 2009年10月1日掲載



【託児サポーター認定】

託児サポーター研修の全課程を修了した学生には、平成 21 年 11 月 10 日(火)、小白川キャンパス事務棟第一会議室にて、「託児サポーター認定式」を挙行し、山形大学長の発行する認定書と登録証を授与した（併せて、財団法人女性労働協会の発行する修了証を授与している）。尚、託児サポーター活動中は、登録証を携行することを義務づけている。

登録証の更新は、毎年、男女共同参画推進室の教員が面接を行い、学業に支障が無いかを確認した上で行う。

○認定式

第	号		
認 定 書			
	学部	学科	
平成	年度入学		
上記の者は 本学が指定する山形大学託児サポーター研修を修了したので 山形大学託児サポーターとして認定する			
平成	年	月	日
山形大学長 結 城 章 夫			

教職員の仕事と子育て両立 学生が託児サポーター

山形大が来月から



山形大教職員が仕事と子育てが両立できる人、学生引人（託児サポーター）になり、教職員の仕事を預かる託児サービスは12月1日から始める。学生に意欲や子供を預かる託児サービスは、東北の大学では初。10日に山形市の小白キャンパスで認定書授与式があり、特に

山形大は来月、小白キャンパスで、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

「託児サポーター」に認定書 山形大

山形大の女性教職員が、仕事と子育ての両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式が10日、山形市の同大の小白キャンパスで行われた。

山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

山形新聞 朝刊
2009年11月11日掲載

山形大に託児ルーム

女性教職員向け学生が世話

来月から



山形大は来月、小白キャンパスで、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。



山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。山形大は来月、保育士と教職員の両立を支援する「託児サポーター」の認定書授与式を行う。

河北新報 朝刊
2009年11月11日掲載

【託児サポーター登録】

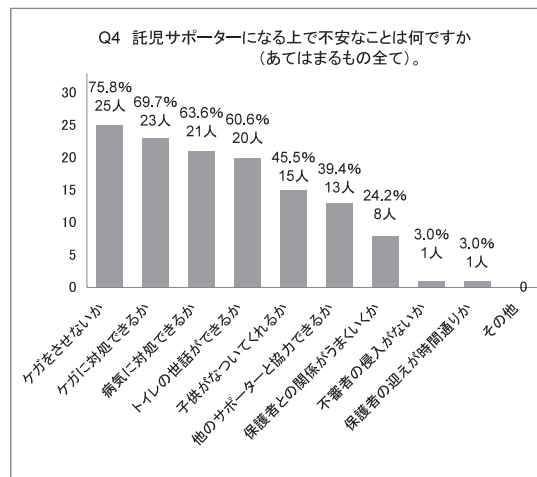
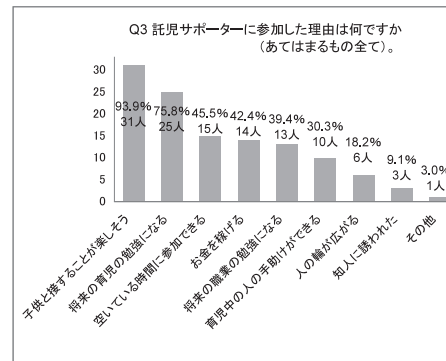
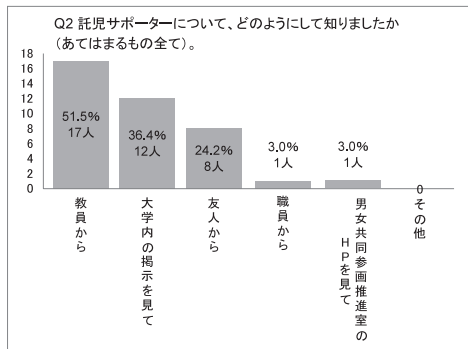
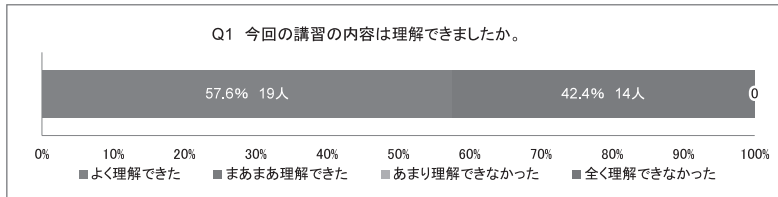
	<h3>登 録 証</h3>	No.
	山形大学 学部 学科 平成 年度入学 氏名	
写真 (3.5cm×4cm)	上記の者は、山形大学託児サポーター であることを証明する。 平成21年11月13日交付 山形市小白川町一丁目4番12号 国立大学法人山形大学長	
		

登録確認の欄	
①登録確認:平成21年11月10日～平成21年3月31日	
②登録確認:平成 年 月 日～平成 年 月 日	
③登録確認:平成 年 月 日～平成 年 月 日	
④登録確認:平成 年 月 日～平成 年 月 日	
(備考)	

注) 毎年、本制度の実施規程に基づく登録確認を行ってください。

【託児サポーター研修アンケート】

対象者
回収数 33人
回収日時 託児サポーターの講習終了日 9月28日(実習の前)



Q5 来年度の講習で取り入れた方がよいこと、その他、託児サポーター制度全般に希望することをご自由にご記入下さい。

●講習について
病気やケガの講習の時間がもう少し長く必要だと感じました。
Q4の他のサポーターと協力しやすくするためにグループワークがあると良かったかなと思います。
講義でも実践的な演習をすると実習で役立つと思う。
もっと夏休みのなかで開講して、後期の授業にかぶらないようにした方がよいと思う。
講習の時間割ははっきりさせた方がよいと思います。
テキストをいただけたので、適宜自習ができるのはよいと思います。必要最低限覚えておくべき点は小テストをするくらいはしても良いかと考えます。また、もし保育士資格を持っているような人がいた場合、講習を一部免除する等の措置があっても良いのでは、とも思いました。
●託児サポーターの制度について
託児サポートがどのように行われるのか、まだよく分からない部分が多いのでしっかり説明してほしい。どんな子供達に来るのか？何人くらい？給料のもらい方etc...

②託児ルーム

【一時保育場所】

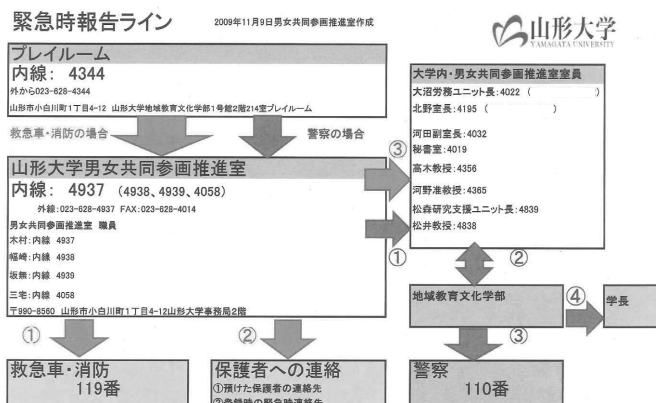
平成 21 年度は、地域教育文化学部の 1 号館 2 階の心理実験室（プレイルーム）を託児ルームとして使用した。常時借用することができないため、院生等が同場所を使用しない日のみ、17 時頃～20 時頃まで、必要に応じて借用している。

平成 22 年度以降は、恒常的に使用可能な保育場所を確保するため、現在、検討中である。

託児ルームのキャパシティ：広さ 45 m²、カーペット敷き、子どもさん 6～7 人の託児可

【危機管理体制】

危機管理体制として、事故の場合の連絡先、確認事項を記した危機管理マニュアルを作成し、避難場所、避難経路を周知している。



③託児サポーター制度の利用・保育体制

【登録から利用まで】

利用者は、まず利用者登録をしてもらい、お子さんが普段どのような環境で生活を送っているかを把握する。その情報を男女共同参画推進室、託児サポーター、保育士が共有する。保育当日のお子さんの様子についても、保護者から情報を得た上で保育に当る。更に、保育終了時には、託児サポーターが託児中のお子さんの様子を「連絡ノート」に記録し、保護者に手渡している。

山形大学 託児サポーター登録カード		登録カード番号	
1. お子さんの情報		*このカードは山形大学男女共同参画推進室で保管します。 登録日 200 年 月 日	
ふりがな			
お名前	愛称()		
生年月日	西暦 年 月 日 (登録時 満 歳 カ月)		
性別	女・男		
普段通っている保育施設や学校(無い場合空欄)	(電話番号)		
2. 保護者の方の情報			
ふりがな			
お名前			
勤務先	山形大学 (電話番号)		
勤務先メールアドレス			
自宅住所	〒		
自宅・携帯電話番号	(自宅電話)	(携帯電話)	
3. 緊急連絡先 (3か所以上ご記入ください)			
連絡順序	氏名	お子さんとの続柄	勤務先や自宅の場所(詳しく)電話番号
①			
②			
③			
④			

4. 普段のお子さんの状況			
食事	食べる時間	誰と食べるか	
	朝食 時頃		
	昼食 時頃		
	夕食 時頃		
	おやつ 時頃 時頃		
睡眠	一人で寝る・添い寝する・ベツで寝る・その他()		
寝かせ方	する(時頃 ~ 時頃) ・ しない		
就寝と起床時間	就寝 時 頃、	起床 時 頃	
入浴	時頃		
排泄			
オムツ	オムツ・パンツ 取れた年齢(歳ごろ)		
大便	教える() ・ 教えない()		
小便	便の状態: 普通・やわらかめ・硬め・その他()		
便器	教える() ・ 教えない()		
おねしょ	洋式・和式・オマル・その他()		
服の着脱	ある(昼・夜) ・ ない		
運動	ぬげる・ぬげない / 着られる・着られない / はける・はけない		
首すわり	カ月	這う	カ月
歩き始めた時期	歳 カ月		
普段の遊び相手	同年代・兄弟姉妹・年上・年下・大人・その他()		
好きな遊び、玩具など			
平熱	℃		
5. 託児の際に特に注意すべきこと			
アレルギー	ある・なし・その他() アレルギーを起こす食品:		
持病	服用している薬など()		
その他特に気をつけてほしいこと			

【保育体制】

保育士の立ち会いの下、乳児の場合は託児サポーター複数で対応し、幼児の場合は1人につき託児サポーター1名体制で対応する。

【託児制度周知のためのポスター】



山大・託児サポーター 利用してみませんか？



11月16日登録開始
12月1日託児スタート!!
平成22年3月まで無料!



仕事が長引いて子どもの世話ができない方！夕方の17時から20時まで、
保育士と託児サポーターの学生がお子様を学内でお待ちしております。

【ご利用できる方】 本学の教職員、定時勤務職員及び短時間勤務職員で、育児中の者
本学の大学院等に在籍する学生で、育児中の者 など

【お預かりするお子様の年齢】 満1歳～小学生以下

【託児ルームの場所】 地域教育文化学部1号館2階・プレイルーム

【託児時間】 17:00～20:00（最長3時間まで）

詳細については山形大学男女共同参画推進室まで！

小白川キャンパス事務局2階

Tel: 023-628-4938

E-mail: danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/danjo.html>



イラスト：地域教育文化学部 樽見ゆり江さん

山大は「山形ワークライフバランス・イノベーション」をテーマに、仕事と育児等の両立を可能にする職場づくりを進めています。

【託児サポーター・リーフレット】

山大・託児サポーターを利用 してみませんか

山形大学は、男女共同参画を推進する大学として、「山形ワークライフバランス・イノベーション」をテーマに、全学をあげて仕事と育児等の両立を可能にする職場づくりを進めております。

「山大・託児サポーター（以下「託児サポーター）」は、研究と育児等を両立可能にする研究環境整備の具体的支援の1つです。仕事が長引く予定があり、保育所から帰る子どもの育児ができない場合などに、専門の保育士と学生が協力しながら、教職員のお子様を一時的にお預かりします。



イラスト 地域教育文化学部 樽見ゆり江さん

<託児ルームの見学>

事前に託児ルームを見学することができます。詳細は男女共同参画推進室までお問い合わせ下さい。

2. ご利用の予約

- ・ご利用予定日の5日前まで、電話又はメールで受付いたします。託児サポーターと保育士の手配が必要ですので、なるべく早めにご予約下さい。
- ・保育時の傷害保険料として、山形大学生協同組合にて、保険（お子様1人につき1回30円）の手続きを、ご利用になる前にお願ひいたします。（傷害保険に未加入の場合は、お預かりすることができません。）

【予約先】

男女共同参画推進室（受付時間 10:30～17:00）
内線電話番号：4058
外線電話番号：628-4938
メールアドレス danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

託児ルームの都合上、やむを得ず、ご予約を受けられない場合がございます。

3. ご利用の当日

- ・保育士と託児サポーターが、託児ルームにてお待ちしておりますので、お子様と一緒に、託児ルームへお越し下さい。
- ・当日のお子様の体調や様子について、簡単なご質問をさせていただきます。

【ご利用のご案内】

【ご利用できる方】

- ・本学に勤務する職員、定時勤務職員及び短時間勤務職員で、育児中である者
- ・本学の大学院等に在籍する学生で、育児中の者
- ・その他男女共同参画推進室長が適当と認める者

【お預かりするお子様の年齢】

満1歳～小学生以下

【保育体制】

保育士の下に、1歳～就学前のお子さん1名に対して託児サポーター1名、小学生のお子さん2名に対して託児サポーター1名を配置します。

【託児サポーター】

保育に当たる託児サポーターとは、財団法人女性労働協会の「保育サービス講習会」のカリキュラムに従って、保育経験をほとんど持たない学生が保育に携わることができるよう、山形大学が独自に、保育実習を加えて実施する「託児サポーター研修」の修了生のことです。託児サポーターに携わる学生は、山形大学長が発行する「託児サポーター認定書」を授与され、託児をする際には、「登録証」を携行しています。

【託児時間】

17:00～20:00（最長3時間まで）

- ・当日のお迎え時間、お迎えに来られる保護者の方の連絡先等を確認いたします。
- ・その他、心配な点等がございましたら、保育士にお伝え下さい。
- ・キャンセルや予約の変更がある場合は、できるだけ早くご連絡下さい。

ご持参いただくもの
着替え一式（下着を含む）
紙おむつ、替えパンツ（必要な枚数）
ビニール袋（2～3枚）
タオル <詳しくは、利用当日のご案内をご覧ください>

食事や飲み物について

衛生上の理由から、託児ルームでの食事は、原則としてできません。どうしても必要な場合は、保護者の方が、ご自身でおやつや軽食等をご用意下さい。また、託児ルームでは、飲み物を用意することはできませんので、必要な飲み物はご持参下さい。

お昼寝用寝具について

託児ルームには、お昼寝用に、簡易座布団等を用意しておりますので、お使いいただくことができます。また、毛布や布団類については、衛生上の観点から、ご持参いただくようお願いしております。

おもちゃについて

託児ルームには若干のおもちゃを用意しております。その他、お子様のお気に入りのおもちゃや毛布などがありましたら、ご持参下さい。

【利用料】

平成22年3月までは試行期間中につき、利用料は無料です。ただし、保育時の傷害保険料として、お子様一人につき、1回30円の実費がかかります。

【保険について】

お子様をお預けの際には、山形大学生協同組合の「行事保険（普通傷害保険）」へ、ご加入下さい。託児サポーターは「学生教育研究災害傷害保険」に加入しております。託児中の賠償責任については「国立大学法人総合損害保険」に加入しています。

【ご利用方法】

1. 登録
・登録制（登録料は無料）
初回のご利用の前に男女共同参画推進室にて、登録手続きをお願いします。利用についてのご説明をした上で、登録票にご記入いただけます。

<登録時にご持参いただくもの>

- ・お預けになる方が職員等であることを証明できる書類
- ・健康保険証（原本・お子さんの名前が記入されているもの）

<担当託児サポーターとの面談>

お子様に慣れていただくために、事前に、男女共同参画推進室スタッフ同席のもと、（場合によっては保育士も同席した上で）託児サポーターとの面談を行います。

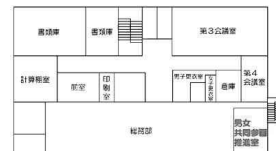
【託児ルームの場所】

託児ルームはセキュリティの問題を考慮して掲載していません。利用希望者は、男女共同参画推進室までお問い合わせ下さい。



【男女共同参画推進室の位置図】

事務局棟 2階左側奥



発行：

山形大学 男女共同参画推進室
Tel:023-628-4937、4938、4939
E-mail: danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【託児サポーター説明会】



ニコニコ託児ルーム 見学・説明会のお知らせ

保育士（NPO 法人やまがた育児サークルランド所属）と
男女共同参画推進室スタッフがご説明します！

平成21年

12/21(月)

お昼の部 12:00~13:00

夕方の部 17:00~18:00

（上記時間帯に保育士が待機しておりますので、お好きな時間帯にお越し下さい。）

【場所】 ニコニコ託児ルーム（地域教育文化学部 1号館2階・プレイルーム）

【対象】 利用を考えている方はどなたでも。

【説明内容】 託児の内容、保険、登録等



お申し込みは山形大学男女共同参画推進室まで！

小白川キャンパス事務局 2階

Tel: 023-628-4937

E-mail: danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/danjo.html>

イラスト：地域教育文化学部 樽見ゆり江さん

山大は「山形ワークライフバランス・イノベーション」をテーマに、仕事と育児等の両立を可能にする職場づくりを進めています。

④託児ルーム利用実績

【利用登録者数】 (平成 22 年 3 月 4 日現在)

保護者の数 (教員、職員、学生) : 8 名

子どもの数 : 13 名

【利用実績】

	日付	子どもの数及び年齢	サポーターの数	保育士の数
1	H21.11.13	1人(4才)	2	1
2	H21.12.21	1人(7才)、1人(5才)	0	1
3	H22.1.5	1人(10才)、1人(1才)	3	1
4	H22.1.6	1人(10才)、1人(1才)	3	1
5	H22.1.26	1人(5才)、1人(2才)、1人(1才)	4	1
6	H22.1.28	1人(8才)、1人(5才)	3	1
7	H22.2.10	1人(7才)、1人(3才)	2	1
8	H22.3.8	1人(4才)、1人(1才)	2	1

【託児ルーム開催の様子】



(2)ユビキタス・ワーキング・システム

平成 21 年度は、ユビキタス・ワーキング・システムの一環として、電子ジャーナル (Elsevier 社 Science Direct、Springer 社 Springer Link)、Web of Science を学外から利用することができるようになった。本学の教職員・学生で情報系センターの教育・研究用アカウントを保有している場合、自宅や出張先で電子ジャーナルの閲覧が可能である。(詳しくは山形大学図書館 HP 参照 http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/news/oshirase_alllib/oshirase100223.html)

学外からのシラバス入力や旅費・物品請求等については、現在、ユビキタス構築に向けて準備中であり、平成 22 年度は更に研究と教育環境のユビキタス化を推進して行く予定である。

(3)巡回聞き取り相談事業

平成 20 年度に実施した学内アンケート結果によると、「職場に相談できる人がいない」「両立のための精神的支援が必要」と回答する女性研究者は、男性よりも多かった。このような現状を改善すべく立ち上げたのが、巡回聞き取り相談事業である。今年度は非常勤の相談員を 3 名配置し、全キャンパスを巡回して、女性研究者の現状の把握と女性研究者が抱える問題の汲み上げを行った。本事業は平成 22 年度以降も継続していく予定である。

①巡回聞き取り相談事業の概要

【目的】

本事業は各キャンパスを巡回し、女性研究者（教員＋博士課程の院生）の研究と生活の現状を把握するとともに、ライフバランスの取れた研究・生活を送る上で、どのような問題や障壁があるのかを汲み上げるものである。集積したデータを分析し、問題となる状況を共有した上で、大学の取り組むべき課題として、男女共同参画推進室を中心に解決方策を探る。

【本事業の有効性】

相談員が定期的に巡回することによって、問題の早期発見・早期対応が可能となると同時に、複数のキャンパスに共通する問題状況を把握できるというメリットがある。

【巡回相談を行う上での留意点】

多忙な研究者にご協力をお願いするため、できるだけお手間をとらせないように、的確にポイントを絞った相談を行うよう努める。

【巡回相談回数】

年に 1 回以上

【巡回相談以外の相談業務】

定期相談以外にも、男女共同参画推進室にて、来室相談、および、メールや電話での相談を随時受け付ける。

【相談の範囲】

研究・キャリア面での相談、育児・介護相談、健康、将来への不安、どこにも相談できなかった不安等、「何でも、よろず相談」を行う。

【相談後の対応】

- ・ 関係部所へ繋ぐ
- ・ 関係する情報を提供する
- ・ 匿名性を保持しながら、「個」の問題ではなく「研究者」の問題として扱う
- ・ 「学長・学部長と女性研究者との懇談会」等で議論する。
- ・ 「男女共同参画推進室」として、各学部や担当部署にお願いする、等々。
- ・ 次年度以降にスタートする学内メンターや、学部内ワーキンググループ等、「問題解決のためのチーム」を立ち上げ、優先度の高い問題や障壁の解決を図る。

【プライバシー保護、個人情報保護】

相談内容については、男女共同参画推進のための基礎資料として使用するが、内容等が公表される際には、絶対に個人が特定されないように情報管理を徹底する。

【相談対象者の人数】

①所属別

大学院・博士課程

医学	29
看護	11
生命	2
理工学	16
	58

教員

人文	12
教育	15
理	3
医	44
大学院・医	5
附属病院	12
理工学	5
農	4
その他	8
	108

②キャンパス別

人数(各キャンパス)

飯田	103
米沢	21
鶴岡	4
小白川	38
合計	166

②巡回聞き取り相談の日程伺い

巡回聞き取り相談の日程伺いの方法は、教員の場合、直接協力依頼文書と日程伺い用紙を返信用封筒を同封して送付し、事前に都合のよい日を把握した上で、主にメールにて日程調整を行った。大学院生の場合は、協力依頼文書等の書類を、各学部の学務チームを通して配布した上で、日程調整を行った。

女性研究者の皆様

山形大学男女共同参画推進室長
理事 北野 通 彦

女性研究者等への巡回聞き取り相談へのご協力をお願い（依頼）

本学では、本年度文部科学省科学技術振興調整費が採択され、「山形ワークライフバランス・イノベーション」をテーマに、全学をあげて、仕事と育児等の両立を可能にする職場づくりを推進することとしております。

これを受け、男女共同参画推進室では、このたび「巡回聞き取り相談事業」を行うことになりました。この事業は、男女共同参画推進室の教員と非常勤相談員が一緒になって、各キャンパスを巡回して聞き取り相談を行い、女性研究者等（教員と博士課程の大学院生が対象）の研究や生活の現状を把握するとともに、キャリア支援等をメインとして、ライフバランスの取れた研究・生活を送る上で、どのような課題や障壁があるのかを汲み上げるものです。

巡回相談業務を通じて、女性研究者等が抱える問題を共有し、本学の取り組みや課題について男女共同参画推進室が中心となって解決方策を探ることを目指しております。

つきましては、女性研究者の皆様のご希望とご都合をお聞きし、来月から順次、訪問相談を開始することを予定しております。訪問する時期や聞き取りした内容につきましては、個人情報保護が絶対に漏れないよう、十分配慮して行うこととしておりますので、本事業について格段のご理解とご支援をいただきたいと存じます。

お忙しいところ恐縮に存じますが、別添の日程伺い表にご記入の上、直後、男女共同参画推進室へ **QROB** まで、ファックス、メール、学内便等にて送付していただきたく、お願い申し上げます。

記

- 女性研究者等への巡回聞き取り相談日程（○字部）：
 - ①日程伺い表の配布 平成 21 年○月○日～○月○日
 - ②男女共同参画推進室への送付期限 平成 21 年○月○日
 - ③聞き取り相談日程 平成 21 年○月○日～○月○日
- 巡回聞き取り相談事業の内容：別紙のとおり
- 聞き取り相談対象者：全女性研究者（教員、博士課程の大学院生）

④巡回聞き取り相談結果の概要

巡回聞き取り相談の結果、ワーク面では、大学院生と教員の両者が抱える共通の問題があるものの、立場によって異なる悩みを抱えていることが浮かび上がった。ライフ面についても、ライフステージによって抱える問題が異なり、それらについての詳細な分析をする必要性がある。その上で、女性研究者が抱える問題を一つずつ解消されるような方向で、男女共同参画事業を進めて行きたい。

(A)ワーク分野（研究・教育）で抱える問題・要望

【共通の問題】

- 話し相手がない
- 女性研究者を支援するしくみを知らない
- 心理的ストレス
- 女性は研究グループも組みにくい

【大学院生】

- 研究環境への不満
- 指導体制への不満

【留学生】

- 孤独、不安

【教員】

- 研究費を取るプレッシャー
- （若手教員の場合）キャリアを積む上での不安
- 研究・教育・事務のバランスが悪い
- 会議の負担「会議の時間で圧迫されている」
- スタッフが足りない
- 上層部の考えが見えてこない

(B)ライフ分野（家庭・生活）で抱える問題・要望

【共通の問題】

- 研究もしたい、家族（夫）とも暮らしたい

【未婚・非婚世代】

- 結婚・育児への不安
- 子どもを育てるのを躊躇してしまうようなロールモデルの存在
- 理想的なロールモデルもあり

【子育て世代】

- 制度上は育休が取れるが、取得しづらい
- 子育てを優先したいが、なかなかできない
- 女性自身の意識改革の必要性がある

- 病児保育・病後児保育への要望
- 職場の雰囲気改善・育休を取ることのできる雰囲気づくり
 - ・出産・育児への理解の低さ
 - ・夕方はいるのが当然という雰囲気
 - ・休むと攻められるような雰囲気

○育休機関の延長への要望

【子育てを終えた世代からみると・・・】

- ・今思えば子育ても大変だったが、何とかのりきった
- ・子育ては父親にも協力してもらおう
- ・女性だけが全部やっては無理

(C)大学全体の問題

- 各学部間交流が少ない
- 何でも山形（小白川）で決めるのではなく、各学部にも決めさせて欲しい
- 男女共同参画は、色々な人が参加できる取り組みになって欲しい

3. 女性研究者の裾野拡大

女性研究者の裾野拡大を図るため、平成 21 年度は農学部（鶴岡キャンパス）において、ロールモデルとなる卒業生との交流事業として「農学部系卒女子のお仕事って？～先輩に聞こう！」、女子中高生向けセミナーとして「女子高生のための山形大学農学部キャリアセミナー」を開催し、更に女性学・ジェンダー関連授業として小白川キャンパスにおいて「ウーマン・オブ・ザ・ヤマガタ」を開講した。平成 22 年度以降も、女性研究者の裾野拡大のための事業を、各学部において開催して行く予定である。

(1)ロールモデルとなる卒業生等との交流

農学部系卒女子のお仕事って？～先輩に聞こう！

実施日	2009 年 12 月 19 日(土)
場所	山形大学農学部（山形県鶴岡市）
対象者	一般 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> (中学・ <input type="checkbox"/> 高校・ <input type="checkbox"/> 大学) <input type="checkbox"/> その他 ()
来場者	人数： 71 名 内訳 高校生 23 名（女性）、付き添いの高校教員 2 名、大学学部生 46 名（女性）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 <input type="checkbox"/> メディア取材 <input type="checkbox"/> プレスリリース <input type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> メール発信 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> 高校教師に直接連絡）
実施者 関連サブテーマ	○ 実施取り纏め者を記載 木村直子 山形大学農学部准教授（男女共同参画推進委員会委員） 菅原幹夫 山形大学農学部企画広報室室長 遠藤文子 山形大学農学部学部チーム学務担当 木村松子 山形大学男女共同参画推進室准教授 ○ 関連するサブテーマを記載 なし
内容	○実施内容を具体的に記載 農学部系の進学・就職を考えている女子高生および現役女子学部生を対象に、農学部を卒業後、理系職で活躍している若手の女性 5 名から自身の仕事について話してもらった。イベントは以下の 3 部に分けて実施した。 第 1 部 農学部 OG による「私達の職場はこんなところです！」 14 時 ～ 15 時 15 分 講師 三宅 裕子 さん（武田薬品工業（株）開発研究センター・研究員） 大木 庸子 さん（環境省東北地方環境事務所・自然保護官） 大井 歌奈子 さん（森永製菓（株）菓子マーケティング部企画担当） 岡部 幸子 さん（元青年海外協力隊、現（財）山形県国際交流協会・相談員） 鈴木 雪絵 さん（国立大学法人山形大学農学部・技術職員） 第 2 部 パネルディスカッション 15 時 25 分 ～ 16 時 講師の先生との質疑応答 第 3 部 農学部構内施設見学会（高校生希望者のみ） 16 時 ～ 16 時 30 分

効果、問題点	<p>○ 実施した効果を具体的に記載</p> <p>高校生に対しては、農学部に興味を持ってもらうことができ、学部生に対しては将来の進路について詳しく知ってもらうことができたと考えられる。</p> <p>イベント終了後のアンケートでは（高校生 23 名参加中 18 人回答、学部生 46 名参加中 38 名回答）、今回のセミナーへの参加で感じたことを聞いた（複数回答可）。高校生では、「農学部比以前よりも興味を持つようになった」55.6%（18 名中 10 人）、大学生では「農学部卒業後の進路について少しイメージできるようになった」63.2%（38 名中 24 人）がそれぞれトップであった。</p> <p>また、男女両方の講師や男女学生向けのイベントではなく、女性の講師のみで女性の高中生・学部生向けのイベントだったことで、参加しやすかったという意見もあった。アンケートでは女子高校生の 83.3%、女子大生の 71.1% が、「女子向け」であることで参加しやすいと答えている。自由回答では、「女子向けの企画はなかなかないので、参加しやすかった」、「“女子学生向け”という企画だと、自分の卒業後やこれからの目的へのイメージが持ちやすく有意義だと思う」という意見があった。</p> <p>○ 実施上の問題点を具体的に記載</p> <p>第 1 部の 5 人の講師の講演では、時間が後ろにずれ込んでしまい、第 2 部や第 3 部が短くなってしまった。</p>
反省事項	<p>○ 上記事項に関する反省点を記載</p> <p>時間が後ろにずれこんでしまったことについて、今回の様に講師が多いイベントでは、タイムコントロールを厳密にするべきであった。</p> <p>○ 他の実施者に参考となる事項を中心に記載</p> <p>高校 2・3 年生の参加を得ることができたが、12 月開催であったため、高校 3 年生の参加は少なかった。</p>
特記事項	<p>○ 気づき事項、要望等を記載</p> <p>今回、司会進行、講師の世話役、会場運営等、すべてをアルバイトの女子学生に行わせた。そのことが、学部内参加者の増加につながった。また、アルバイトの学生には、セミナーを開催する立場を経験させるよい機会になった。</p>



(熱心に聞き入る 71 名の参加者)

平成21年度女性研究者支援モデル育成(山形ワーク・ライフ・バランス・イノベーション)採択事業

農学部系卒女子のお仕事って? ～先輩に聞こう!～

「農学部を卒業したらどんな職場で活躍できるの?」
そんな疑問を解決し、将来のキャリアビジョンを設計しよう!

日程
平成21年12月19日 14時～16時30分

会場
山形大学農学部301教室

対象
農学部系あるいは理系への進学を希望する鶴岡近隣在住の女子高生
農学部女子学生(学年不問)

内容

第1部 農学部OGIによる「私達の職場はこんなところですよ!」 14時～15時15分
講師
三宅 裕子 さん(武田薬品工業(株)開発研究センター・研究員)
大木 庸子 さん(環境省東北地方環境事務所・自然保護官)
大井 歌奈子 さん(森永製菓(株)菓子マーケティング部企画担当)
岡部 幸子 さん(元青年海外協力隊・現(財)山形県国際交流協会・統括相談員)
鈴木 雪絵 さん(国立大学法人山形大学農学部・技術職員)

第2部 パネルディスカッション 15時25分～16時
講師の先生方への質問

第3部 農学部構内施設見学会(高校生希望者のみ) 16時～16時30分

お問い合わせ先
山形大学農学部企画広報室(菅原)
TEL:0235-28-2803 E-mail:noukich-s@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
山形大学農学部・山形大学男女共同参画推進室共催

【参加者へのアンケート】

21.12.19(土)「農学部系卒女子の仕事って?～先輩に聞こう!」アンケート集計

【高校生】

受講者:23名 教員:2名 回答者:18名(高校生のみ) 回答率:78.3%(高校生のみ)

あなたの所属は?

高校1学年	8名
高校2学年	9名
高校3学年	1名
計	18名



■ 高1
■ 高2
■ 高3

参加理由は?(複数回答可)

講演者の中に興味のある職種があったから	3名
自分の進路選択の参考になりそうだったから	10名
農学部に興味があったから	5名
農学部OGや現役の学生と交流してみたいから	0名
友達や先輩、先生に誘われたから	6名
なんとなく	1名
計	25名

今回のセミナーについての感想は?

A.満足の種類

非常に有意義だった	5名
まあまあ有意義だった	13名
あまり有意義でなかった	0名
わからない	0名
計	18名

B.理解の種類

よく理解できた	4名
まあまあ理解できた	13名
よく理解できなかった	1名
わからない	0名
計	18名

C.今回のセミナーへの参加で感じたこと(複数回答可)

興味があった職種について知ることができた	5名
農学部卒業後の進路について少しイメージできるようになった	6名
農学部以前よりも興味を持つようになった	10名
第1部の講演時間が長かった	5名
第1部の講演時間が短かった	0名
第2部の時間が長かった	4名
第2部の時間が短かった	0名
もっと質問したかった	0名
特に何も感じない	0名
計	30名

「女子高生向けの～女子大生向けの～」という企画について

参加しやすい	15名
参加しにくい	0名
なぜ特定の企画にするのかわからない	1名
特に何も感じない	2名
計	18名

【高校生】

次回、もしこのような機会があったら、興味のある企画は?

- ・ 体験授業
- ・ 体験授業(実験)
- ・ 環境のことをもっと詳しく知りたい
- ・ 今回のような、進路のことについての企画です
- ・ 卒業後の進路について

その他、自由な感想などありましたらお願いします。

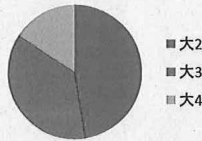
- ・ 講師の方々のわかりやすいお話で農学部のその後などが詳しくわかってよかったです
- ・ 新薬をつくるのにイヌ、ウサギなどを使って臨床検査していることを初めて知った。(マウス)だけだと思っていた
- ・ 大学に入ること、将来が決定されてしまうようなイメージがありかなり不安だったが、求めれば幅広い職業を選択することが可能であるということを知ることができて良かった
- ・ 講演して下さった方全員が女性の方々だったので、とても聞きやすかったです
- ・ すごく自分のためになったので、参加して良かったと思いました。企画していただき、本当にありがとうございました

【大学生】

受講者:46名 回答者:38名 回答率:82.6%

あなたの所属は？

大学2学年	18	名
大学3学年	14	名
大学4学年	6	名
計	38	名



参加理由は？(複数回答可)

講演者の中に興味のある職種があったから	17	名
自分の進路選択の参考になりそうだったから	26	名
農学部に興味があったから	2	名
農学部OGや現役の学生と交流してみたいから	3	名
友達や先輩、先生に誘われたから	9	名
なんとなく	1	名
その他(別紙参照)	4	名
計	62	名

今回のセミナーについての感想は？

A.満足の程度

非常に有意義だった	19	名
まあまあ有意義だった	21	名
あまり有意義でなかった	0	名
わからない	1	名
未記入	1	名
計	42	名

B.理解の程度

よく理解できた	20	名
まあまあ理解できた	15	名
よく理解できなかった	0	名
わからない	1	名
未記入	2	名
計	38	名

C. 今回のセミナーへの参加で感じたこと(複数回答可)

興味があった職種について知ることができた	25	名
農学部卒業後の進路について少しイメージできるようになった	24	名
農学部以前よりも興味を持つようになった	1	名
第1部の講演時間が長かった	4	名
第1部の講演時間が短かった	0	名
第2部の時間が長かった	1	名
第2部の時間が短かった	0	名
もっと質問したかった	0	名
特に何も感じない	3	名
その他(別紙参照)	3	名
計	61	名

「女子高生向けの～女子大生向けの～」という企画について

参加しやすい	27	名
参加しにくい	1	名
なぜ特定の企画にするのかわからない	3	名
特に何も感じない	4	名
その他(別紙参照)	1	名
未記入	2	名
計	38	名

【大学生】

参加理由は？

- ・ セミナーのTAとして 2名
- ・ アルバイト 2名

今回のセミナーへの参加で感じたこと

- ・ 短い時間にたくさん話を聞いてよかった
- ・ 家庭と仕事を両立してる人をもっと呼んだ方がいいと思いました
- ・ 自分の将来、人生について考えた
- ・ 女性あまり参加してない職種で働いている女性の話を聞きたい

「女子高生向けの～女子大生向けの～」という企画について

- ・ 今までなかった企画なので面白かったと思う

次回、もしこのような機会があったら、興味のある企画は？

- ・ また同じような企画をしてほしい
- ・ 今回のような企画
- ・ 院生(修士、博士)の話も聞いてみたい(院に進むきっかけ、生活など)
- ・ 女学生向けだと参加しやすい
- ・ 同じような企画でも、農業を実際にしてる人や、生産学科よりの卒業生の講演も聞けたらよかったなあと思います
- ・ 今回のような企画で、研究職についている人の話をもっと聞きたい。また、県、市町村や企業で農業技術職についている人の話も聞きたい
- ・ 山形大学農学部OB・OGによる、就活についての話が聞ける企画があると面白いと思う
- ・ 農学部卒の「私達の職場ってこんなところですよ！」
- ・ 先輩との直接話をする機会
- ・ 学部卒で食品・化粧品・医薬品関係の企業に就職した人の話を聞く
- ・ 理系学部卒女子のお仕事って？(研究職について)
- ・ OGとの交流の場としてありつけてほしい(かたよっているからもっといろんなOG) 企業説明会
- ・ できれば就活のために業種別のもを希望します。理系と縁がないような分野(出版・放送など)もきいてみたい

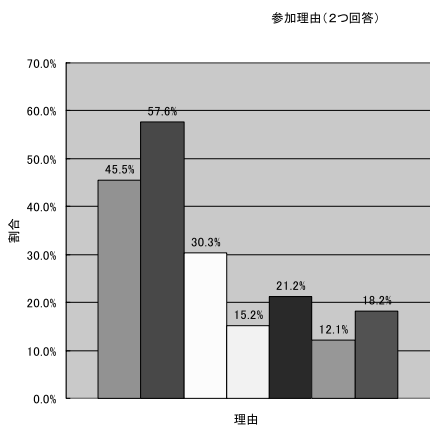
その他、自由な感想などありましたらお願いします。

- ・ 女子向けの企画はなかなかないので、参加しやすかった職場のイメージもつきやすかった
- ・ “女子学生向け”という企画だと、自分の卒業後やこれからの目的へのイメージが持ちやすくて有意義だと思う
- ・ 農学部だからといって農にこだわらずとも、どこかでつながっているということがわかりました。今後の就職活動にも活かしたいです
- ・ 時間がおすぎだった気がする。話自体は有意義で自身はハマったのであまり問題はなかったが、これで時間帰宅時間が大幅にズれる人もいないようではないように感じた。
- ・ ナマイキな話ではあるが、やはり時間どおりであったほうがいいと思いました。ただとてもためになったと思うので、またこのような機会があれば参加したいと思います。
- ・ 様々な業種の方々の話を聞いてとても参考になりました。特に「農学部を卒業させた女性の先輩」ということで、将来のビジョンがこれまでよりも見えてきたように感じました。
- ・ 話に来てくれた人が農学部(山大)と聞くと、とても身近に感じて話にも聞き入りやすかった。がんばっていることが分かり、自分のがんばりへの気力になった
- ・ 企業説明会のような感じだった。良かった。勉強になった
- ・ どの分野の職種も楽しそうで、勉強するモチベーションがあげられました。ありがとうございました。
- ・ 質問の時間も長くっていただき、他の大学卒業の人の話も聞いて良かった。企業・教育・公務員など様々な職種の人の話を聞いて良かった

(2)女子中高生向けセミナー

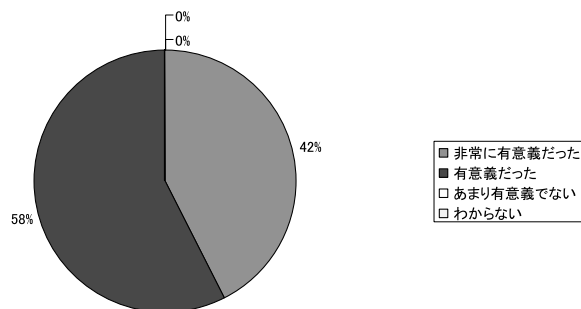
女子高生のための山形大学農学部キャリアセミナー	
実施日	2009年8月5日(水)～6日(木)
場所	山形大学農学部(山形県鶴岡市)
対象者	一般 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> (中学・ <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> ・大学) その他 ()
参加者	人数: 37名(内訳 環境系進学希望者コース2名、食品栄養系進学希望者コース13名、農学、理学生物系進学コース19名、付き添い高校教師3名)
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 <input type="checkbox"/> データ取材 <input type="checkbox"/> プレズリース <input type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> メール発信 <input type="checkbox"/> その他(高校教師に直接連絡) <input type="checkbox"/>
内容	<p>1日目は、男女共同参画推進室委員の木村直子准教授の挨拶に始まり、農学部で行われている研究及び授業紹介の後、環境系進学希望者コース、食品栄養系進学希望者コース、及び農学、理学生物系進学コースの3コースに分かれて講義と実験を行った。</p> <p>2日目は、1日目の実験の続きとまとめを行い、課題をまとめる表現力を学んだり、ディスカッションを行い、閉校式で修了証書授与が行われた。</p>
効果、問題点	<p>終了後のアンケート(33名から回収)から、満足度と理解度が高かったことがわかる。満足度では、14名(42.4%)が「非常に有意義だった」、19名(57.6%)が「有意義だった」と答えている。「理解度では、7名(21.2%)が「よく理解できた」、25名(75.8%)が「まあまあ理解できた」、1名(3%)が「よく理解できなかった」と答えている。</p> <p>また、セミナーに参加して感じたこととして、「面白い研究分野や手法を知ることができた」が29名(87.9%)、「農学部を身近に感じた」が11名(33.8%)であり、農学部の研究を紹介し、親近感を高めることができたことがわかる。自由回答からは、農学部への進学を目指している学生にとっても、そうでない学生にとっても進路選択に役立ったようである。</p> <p>コースによっては、「時間が長い」(2名)、もしくは「時間が短い」(2名)という感想も少数だが、あった。</p>
反省事項	<p>実験はおおむね評判が高かったが、実験によっては、時間が長すぎ、もしくは短すぎる、難易度も難しすぎるなどの意見が少数だがあった。高校と大学では授業の長さが違うので、集中力が持続する時間、難易度調整が必要かもしれない。</p> <p>DNAに関連する実験の評判が高かった。また、動物を使った実験が今回のセミナーではなかったが、動物の観察・実験もしたかったという意見が複数あった。</p>
特記事項	<p>講義や実験だけでなく、セミナーの補助をしていた大学生との会話が印象深いようで、学生との交流をもっとしたいという声があった。高校生と学生が一人暮らしなど、実験以外の大学生活についても色々会話を楽しそうにしていた。学生との交流を持つ時間を特別に作っても良いかもしれない。</p>

【参加者へのアンケート】



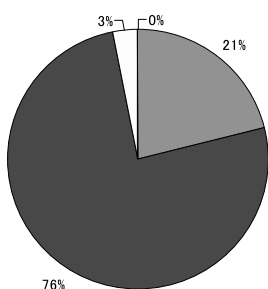
山形大学農学部に興味があったから
 実験内容に興味があったから
 誘われたから
 先輩たちと交流してみたい
 なんとなく
 その他
 非回答

満足度



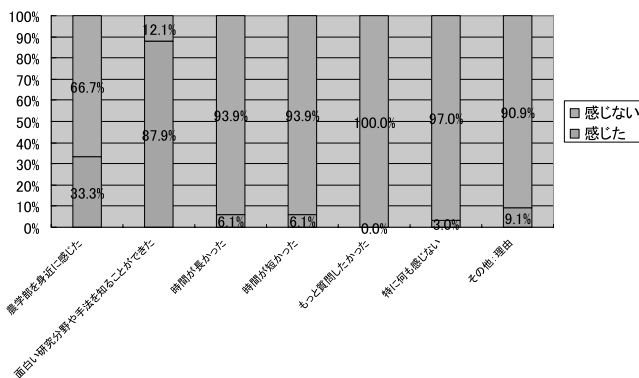
非常に有意義だった
 有意義だった
 あまり有意義でない
 わからない

理解度



よく理解できた
 まあまあ理解できた
 よく理解できなかった
 わからない

キャリアセミナーへ参加して感じたこと(該当するものすべて)



感じない
 感じた

IV.その他、自由な感想などお願いします。

・農学部への興味関心の高まり

農学部についての知識が全然なかった私でも楽しく授業を受けさせてもらうことができ良かったです。先生や学部の方々がいねいに教えてくださって安全に実験をすることができたと驚いたこともたくさんありました。2日間本当にありがとうございました。

農学部って、植物というイメージしかなかったけど、いろいろな学問があるんだなと思った。難しい実験だったけど、楽しかった。来年も受講したいと思った。

私は農学部に行きたいと思っているので、講義を聞いたり、実験をすることができてとても楽しかったです。今回の経験を進路に活かしていければと思いました。

今までは農学部のことについてはおぼろげながらしかわかっていませんでした。しかし、講習や実験を通して今まで以上に興味がわきました。大学生のお話もおもしろかったです。これからの進路に役立てていきたいです。

「農学部」といっても、予想以上にたくさんのことが学べると思いました。農学部も視野に入れて、また勉強していきたい。

<p>農学部についての知識が全然なかった私でも楽しく授業を受けさせてもらうことができ良かったです。先生や学部の方々がていねいに教えてくださって安全に実験をすることができたと驚いたこともたくさんありました。2日間本当にありがとうございました。</p>
<p>実験は難しかったし、緊張した。けど作業も楽しかったし、結果が出たのが楽しかった。また、大学生と話して色々聞いて、よかったし、おもしろかった。ありがとうございました。</p>
<p>DNAの実験すごく楽しかったです。染色体や配偶子のことすごく分かりました。農学部もいいなと思いました。</p>
<p>・学生との交流について</p>
<p>大学生と話す機会があって、楽しかった。実験は難しかったけど、結果が出たときは良かった。出ないかと思った。大学のこともいろいろ聞いて楽しかった！！どうもありがとうございました。</p>
<p>学生さんと交流できて良かったです！！</p>
<p>発酵の実験など興味の持てる実験内容で、普段できない体験ができて良かったです。</p>
<p>・その他</p>
<p>思っていた内容と少し違った。あらかじめ講習の内容を詳しく教えてもらえればよかった。自分の興味がある分野とはちょっと違ったけど、コロニーの観察などおもしろい実験ができてよかった。無料でセミナーに参加できて、ありがたいと思った。</p>
<p>少し話が長かった。難しくて少し興味が・・・</p>

(3)ウーマン・オブ・ザ・ヤマガタ（教養セミナー）

「対話を通してキャリア・ビジョンを描こう」

【テーマ】

21世紀日本の担い手である学生が、多方面で活躍する女性たちとの対話を通して、自らのキャリア・ビジョンを描く。

【ねらい】

「男女共同参画社会」の実現は21世紀日本の最重要課題です。男女共同参画社会を実現するためには、男性＝仕事、女性＝家庭という性別役割分担を見おなし、男女とも、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」が保てる働き方に変えていく必要があります。これから社会に出て行く大学生の皆さんは、まさにこの社会を形成していく一員となります。

しかしながら学生の皆さんのまわりには、人生の各段階において、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発等、様々な活動を自らの希望に沿って実現させている人はあまり多くないと思います。そこで、学内外の社会人の方々を招き、公園や対話を通して、ひとりひとりの学生の皆さんのキャリア・ビジョンに役立ててもらうことを狙いとして、この授業を新設しました。

今学期は、とくに山形で活躍している女性たちに協力してもらって授業を構成します。女性はもちろん男性の学生の方にも、役立つ授業を展開します。

【目標】

- (1)「男女共同参画」について理解する。
- (2)女性と男性の働き方や生活についての現状を知る。
- (3)山形で活躍する女性たちの「仕事と生活」を聞く。
- (4)グループで、各回の授業進行を担当する。
- (5)全体を通して自分のキャリア・ビジョンを考える。

【キーワード】

男女共同参画社会、ワークライフバランス、キャリア・ビジョン

【学習の方法】

- ①毎回の豪華ゲストから「何か」をつかみ取る意欲をもって参加してください。
- ②「10年後の自分」を考えながら受講してください。
- ③思ったこと考えたことを表現してください。
- ④各回のゲストについてできるだけ事前調査をしておいてください。

【授業計画】

	月 日	ゲ ス ト 等
1	10月5日	イントロダクション
2	10月19日	近野直美さん（自治体職員・本学教育学部卒）
3	10月26日	阿部未央さん（人文学部法経政策学科）

4	11月2日	野口比呂美さん（NPO 法人育児サークルランド代表理事・本学 人文学部卒）
5	11月9日	片野由美さん（医学部名誉教授）
6	11月16日	斎藤真美さん（山新観光営業部・課長）
7	11月30日	佐々木由佳さん（山形フィールド科学センター・助教）
8	12月7日	金澤恵里さん（山形大学工学部・研究支援）
9	12月14日	天羽優子さん（理学部物質生命化学科）
10	12月21日	菅野美奈子さん（企業組合 AI-SOHO 代表）
11	1月8日	長岡慈子さん（たんぽぽ保育園園長）
12	1月25日	大森桂さん（地域教育文化学部）
13	2月1日	予備日・まとめ
14	2月8日	グループのプレゼンテーション

本授業のコーディネーター

地域教育文化学部	河野 銀子
男女共同参画推進室	木村 松子
同	幅崎麻紀子
同	坂無 淳

【授業終了後のアンケート】

ウーマン・オブ・ヤマガタ（教養セミナー） 平成 22 年 2 月 1 日
 対話を通してキャリア・ビジョンを描こう
 授業終了後のアンケート

1 授業の目標からお尋ねします。

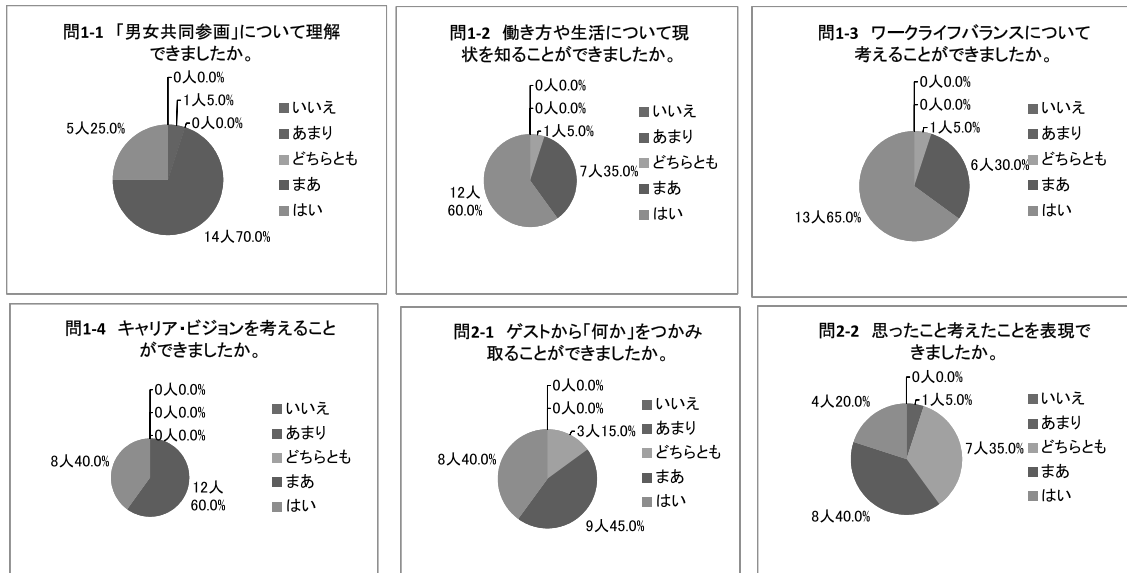
	はい	まあ	どちらとも	あまり	いいえ
(1) 「男女共同参画」について理解できましたか。	5	4	3	2	1
(2) 女性と男性の働き方や生活についての現状を知ることができましたか。	5	4	3	2	1
(3) 山形で活躍する女性たちの「仕事と生活」を聞き、ワークライフバランスについて考えることができましたか。	5	4	3	2	1
(4) 全体を通して自分のキャリア・ビジョンを考えることができましたか。	5	4	3	2	1

2 授業の方法からお尋ねします。

(1) 毎回の豪華ゲストから「何か」をつかみ取ることができましたか。	5	4	3	2	1
(2) 思ったこと考えたことを表現できましたか。	5	4	3	2	1
(3) ゲストや受講生との対話から得た新たな気づきや新たな考え方があったら書いてください。					

ウーマン・オブ・ヤマガタ(教養セミナー)アンケート

20人アンケート回収



問2-3 ゲストや受講生との対話から得た新たな気づきや新たな考え方があったら書いてください。

- ① 女性だから頑張るといよりは人として頑張ることが大切だなと思いました。
- ② 色々ありすぎて書ききれないです。
- ③ 人生観

【授業の様子】



4. アウトリーチ活動


「山形ワークライフバランス・イノベーション」として、山形大学男女共同参画推進室が行っている取組を発表するため、平成21年度は、3カ所のシンポジウムに参加し、口頭発表及びポスター発表を行った。今後も本学の取組について、積極的に発表していく予定である。

①女性研究者支援システム改革プログラム 事業合同シンポジウム「女性研究者支援の新時代を迎えて」

発表方法：口頭発表、ポスター発表

日時：平成21年11月25日（水）～26日（木）


会場：日本大学会館2階 大講堂




山形ワークライフバランス・イノベーション

国立大学法人 山形大学
男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
電話番号：023-628-4938/4939
E-mail: danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
HP: http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo.html



1. 山形大学の現状とアンケート結果

● 教員							● 学生					
	教	授	准	教	助	手	計		博士課程	修士課程	学部学生	合計
男性	270	199	52	162	4	687		男子	206	788	5213	6207
女性	24	26	12	44	0	106		女子	58	245	2746	3049
計	294	225	64	206	4	793		合計	264	1033	7959	9256
女性比率	8.2%	11.6%	18.8%	21.4%	0.0%	13.4%		女子比率	22.0%	23.7%	34.5%	32.9%

平成21年4月1日現在

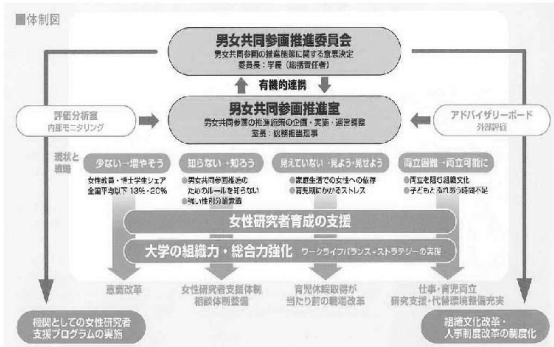
●アンケート調査 平成20年12月に全教職員・大学院生を対象に実施
対象者:3642人、有効回答数:1661人、回収率:45.6%

- ①国や大学の男女共同参画に関する施策を「知らない」
- ②女性研究者の現状が「見えていない」
- ③仕事と育児等の両立が困難な慣行や雰囲気がある

3. 達成目標・期待される効果

- ・平成23年度まで：女性教員の採用比率を20%
(平成20年度の博士課程女性比率)
- ・平成25年度まで：女性教員の比率を15%
将来的に女性教員の比率を25%
- ・平成23年度まで：「男女共同参画社会」という言葉の周知度を倍増
- ・育児休業取得者のいる組織へのインセンティブ付与及び育児休業取得男性への補助：毎年1名以上男性育児休業取得者。
- ・子育て期学会出張時の保育支援制度：毎年5名以上。
- ・女性研究者の競争的研究資金の獲得額を現在より30%高める。
意識改革が進み、支援体制が整うことにより、女性研究者が能力を十分発揮できるようになる。
女性の応募者増加や女性研究者の裾野拡大に寄与するとともに、山形大学が男女共同参画に関する地域の拠点となる。

2. 「女性研究者支援モデル育成」採択と体制図



4. 具体的な取組み (これまでの主なもののみ)

- ・意識改革すなわち男女共同参画に関して「知ること」
- ・女性のおかれている現状を「見ること・見せること」
- ・仕事と育児等の両立を可能にする相談・支援体制が整備された職場づくり
- ・女性研究者の裾野拡大のための施策

ワーク・ライフ・バランス・イノベーションの実現

4-1. 山形県男女いきいき・子育て応援宣言企業登録



4-2. 意識改革のためのイベント

●男女共同参画シンポジウム 平成21年1月23日開催、学内外から約170名が参加



●管理職の意識改革セミナー

役員、学部長、副学部長、学科長及び課長職以上の職員
第1回セミナー
鹿嶋敬氏（実践女子大学教授）平成21年9月11日

第2回セミナー：佐藤博樹東京大学教授
「ワークライフ・バランスと働き方の改革
：管理職の役割」
平成21年12月2日開催



4-3. 託児サポーター制度

- ①(財)女性労働協会の「保育サービス講習会」に大学が独自に実習をくわえて実施する「託児サポーター研修」修了者を認定。
- ②子育て中の教職員等が、利用者登録。
- ③大学(小白川キャンパス)内で17:00～20:00まで、保育士と託児サポーターが子どもを預かる。21年度は試行期間として無料。



山形新聞朝刊1面に報道(平成21年10月1日)



講習・実習: NPO法人山形育児サークルとの協力



開成式:平成21年11月10日

4-4. 女性研究者の裾野拡大とニーズ把握

- ①女子高生のためのキャリアセミナー
平成21年8月5・6日: 講義と実験
「面白い研究分野や手法を知ることができた」
「農学部を身近に感じた」

次回: 女子高生・女子大生のためのキャリアセミナー
「農学部系卒女子のお仕事って? ~先輩に聞こう! ~」
農学部OGによるプレゼンとディスカッション 平成21年12月



- ②H21年度後期教養授業「ウーマン・オブ・ザ・ヤマガタ」開講
 - ・多方面で活躍している女性による講義と対話
 - ・キャリア・ビジョンを考える契機



- ③巡回相談によるニーズ把握
 - ・巡回相談員3名が4キャンパスを巡回、166名の女性研究者と面接
 - ・各学期1回以上を予定、随時「研究と生活」の相談受付

以上、詳細については山形大学男女共同参画推進室までご連絡下さい。

②男女共同参画学協会連絡会 第7回学協会連絡会シンポジウム

発表方法：ポスター発表

日時：平成21年10月7日(水)

会場：東京工業大学

③名古屋大学男女共同参画推進（あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム）シンポジウム「女性研究者のキャリア深化のためのシステム改革」

発表方法：ポスター発表

日時：平成21年10月30日（金）

会場：名古屋大学野依記念学術交流館

5. 「山形ワークライフバランス・イノベーション」の評価分析

本年度は事業がスタートした年であるため、「女性研究者支援モデル育成事業」を評価する機関の設置を行わなかったが、平成22年度には、外部評価機関としてアドバイザリーボードの設置を予定している。これまでの本学の男女共同参画推進事業が、事業目的に沿って効果的に進められているかをアドバイザリーボードにより、評価を受けること、そしてアドバイザーから有益な意見を得て、男女共同参画推進事業の効果的実施、改善に努める。

平成22年度のアドバイザリーボードのアドバイザーは下記の通りである。

【男女共同参画分野】

伊藤眞知子 氏 東北公益文科大学副学長
社会学・女性学、前 NWECC 研究員

【科学ジャーナリスト】

元村有希子 氏 毎日新聞科学環境部記者
「理系白書」元キャップ、科学ジャーナリスト賞受賞、総合科学技術会議委員

【科学技術分野】

赤塚孝雄 氏 山形県立産業技術短期大学校長
工学博士、山形大学名誉教授、山形県科学技術賞受賞、山形県総合科学会議委員長

おわりに

男女共同参画推進室では、平成21年度、様々な事業を行って来ました。本年度は男女共同参画推進室の事業を本格的にスタートして1年目ということもあり、皆様にお手数をおかけしたり不手際等がありましたこと、ここに深くお詫び申し上げます。と同時に、男女共同参画推進室に着任したばかりの我々が各種事業に着手できたのも、皆様にご協力いただいたおかげと感謝しております。

平成22年度も、皆様と共に山形大学の男女共同参画推進室を進めて参ります。益々のご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。